

平成27年度 学校自己評価システムシート (埼玉平成中学校)

目指す学校像	創設者山口茂先生の唱えた「為すことによって学ぶ」の建学の精神のもと、「創造・自律・親切」を校訓として、心豊かで国際感覚を身につけた人材、また多くの体験を通して、真の学力とたくましさをも身につけた生徒を育成することを目標とし、個々の能力を最大限に伸ばす、中高一貫ならではのゆとりある教育機関を目指す。
--------	---

重点目標	「埼玉平成は言葉に強い生徒を育てる」 1 英語教育の徹底 2 コミュニケーション能力の強化 3 徹底した思考力の育成
------	---

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	5名

学校自己評価							学校関係者評価		
年度目標					年度評価(3月19日現在)			実施日平成28年3月19日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	本校は創立当初より、国際化教育を実施している。平成26年度入学試験に県内初の英語入試を実施するなど、英語を重視した教育を進めている。 特に英語を本校の重点教科として挙げ、国際社会で活躍できる人材を育みたい。これを本校改革の柱の一つとする。	英語教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会で活躍するための生きた英語教育を充実する。 英語検定を全員受験とし、年間3回実施する。 国内英語合宿、オーストラリア語学研修旅行、希望者の校内ミニ留学、海外ホームステイを引き続き実施する。 ネイティブスピーカーの教員による放課後のEnglish Station(英会話サロン)を利用し校内で自然に英会話ができる雰囲気を作る。 S選抜クラスでは、第2ステージまで毎朝、ラジオ英語講座に継続的に取り組む。 文化祭時に英語のスピーチコンテストを実施する。1,2学年は暗唱、3学年は、自由テーマで弁論 	<ul style="list-style-type: none"> 英検受験結果 英語行事 英会話サロン成果 スピーチコンテスト成果 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年の英検3級合格者は8割である。(S選抜は全員3級合格)2級は3割合格。 国内英語合宿は、英会話に慣れ楽しく学習できた。 オーストラリア語学研修旅行は、1日を使ったハイスクール訪問で、生徒同士一対一の時間を多くとり英語での会話を重視した交流にした。 校内ミニ留学参加者は全体の半数以上参加した。 English Stationの環境を整備しソファのある教室でリラックスして会話ができるようにした。 スピーチコンテスト参加者のうち上位入賞者3名が地区英語弁論大会に出場した。 地区英語弁論大会入賞者6名中、優勝・準優勝・6位と本校生徒は全員入賞した。優勝者した本校生徒は県大会に進出した。 	A A A B A A	<ul style="list-style-type: none"> 英検合格の為、更に深化した指導を実施する。 校内ミニ留学は、学年が上がるに従い参加者が、やや減少している。状況把握と改善などの施策を実施したい。 スピーチコンテストでは一定の成果がうかがわれた。現在中等部のみコンテストを高等部にも拡大し更に発展させていくことも考える。 	大学受験時に中学校で英検2級を取っていても記載できないので高校生になってから取得した方が良いのではないかな。また、目標を3級全員合格にしても良いかもしれない。ネイティブとの会話、国内英語合宿、校内ミニ留学等、さらに英語力を育むよう指導を継続してほしい。	
2	昨年度までコミュニケーション能力の育成を実施してきた。今年度は特に、この能力の強化を本校改革の柱の一つとして実施したい。「埼玉平成は言葉に強い生徒を育てる」というスローガンのもと、日本語・英語の教育を通し「言葉」の教育を徹底し、そのうえでより高度なコミュニケーション能力を育成したい。	コミュニケーション能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力を強化するため「言葉」の教育を徹底。 日本語検定を全員受験とし、年間2回実施する。 3学年のオーストラリア語学研修旅行時に訪問校のマーウィランパー・ハイスクールの生徒と交流しコミュニケーション力を伸ばす。また、ファームステイで、現地スタッフと英語でのコミュニケーションによるアクティビティ(乗馬、カヌー、アーチェリー等)を体験させる。 昼休みに、校内で日本の名作文学の朗読を放送する。格調高い日本語に触れることにより、真摯な姿勢で「言葉」に向き合う基本を養成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語検定結果 オーストラリア語学研修旅行成果 昼休み名作文学朗読成果 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語検定4級合格者は全体の約9割である。 オーストラリア語学研修旅行時の訪問校マーウィランパー・ハイスクールの生徒と文通やメールなどのやり取りが現在でも続いており、海外の若者とのコミュニケーションが図られている。 昼休みの名作文学朗読により、朝読書の時間に日本の名作文学を読む生徒が増えた。 	A A A	<ul style="list-style-type: none"> 日本語検定合格者を増やす為、国語科での現状把握・指導方法の研究。また、合格対策授業の実施を計画する。 訪問ハイスクールと年に一度だけの交流から様々な教育の場でお互いにコラボできる機会はないか考察し、より深い関係を築く。 	言葉を磨く教育により、現代の青年が直面しているコミュニケーション力を身につけられるようお願いしたい。また、図書館のさらなる充実と読書の習慣化により、長文を読む力を養ってもらえると良い。	
3	新大学入試制度では、思考力を重視した記述式の導入も予定されている。本校改革の柱として、中高6年じっくりと時間をかけ日々の授業やキャリア教育での行事を通じて論理的思考力の育成を図りたい。	徹底した論理的思考力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 将来、社会で活躍できる「思考力・判断力・表現力」を身につけた生徒を育成する。 アクティブラーニング(主体的な授業)を取り入れ受け身ではなく、主体的に学ぶ力を身につける。 一方的な教育ではなく、グループでの話し合い、課題を自ら発見し、主体的に解決策を探る授業を実践する。 プレゼン能力の向上のため、授業で生徒の発表の機会を多く持たせる。また自発的な発信力も高める。 外務省、野村総研などを訪問し、直接肌で社会の最前線を体験させ、上記「思考力・判断力・表現力」の重要性を認識させる。 ジュニア・アチーブメントのコンピュータ・シミュレーションプログラムを導入し、将来社会で活躍できる経営者としての感覚を身につけさせる。 山と川のフィールドワーク(1学年で実施)で、水生生物観察、野鳥観察、高山植物観察を行い、様々な疑問を解決するための初歩的な論理的思考力の育成を図る。 S選抜クラスは、自由テーマによる研究発表会を実施し、一年間の研究成果を教員及び保護者を含めたプレゼンを行う。 NOLTYプランナー(能率手帳)による様々な目標の設定により、学校生活への意欲と、向上心を育む。書くことにより深く考える論理的思考力の養成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニング成果 外務省、野村総研訪問成果 ジュニア・アチーブメントコンピュータシミュレーション導入成果 山と川のフィールドワーク成果 S選抜研究発表成果 NOLTYプランナー成果 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修や校外研修により、実際に使えるアクティブラーニングを取り入れた授業が実施されるようになった。 外務省ホームページに本校が紹介される。キャリア教育の一環として仕事の大切さを肌で感じさせる事が出来た。 コンピュータシミュレーションプログラムで経営感覚を身につけさせる事が出来た。 S選抜研究発表会のプレゼンは全員がパワーポイントを使っでの発表であった。年々プレゼンが上手になってきている。 NOLTYプランナー使用による日々の計画、反省がしっかりできるようになった。目標を定めることにより将来の自己像を描ける生徒が多くなった。 	A A A A A	<ul style="list-style-type: none"> 授業力強化のため、なるべく多くの教師が研修を利用し、自己研鑽に励むようにしたい。 ジュニア・アチーブメント・コンピュータシミュレーションプログラムを全国で競う「知の甲子園」に参加できる程度の生徒を育成したい。 S選抜の生徒のプレゼン能力は向上したが、A進学の生徒に対するプレゼン能力の充実を図りたい。 	アクティブラーニング、ジュニア・アチーブメントなど色々な方法で生徒がディスカッションできる環境づくりが整っていると思う。プレゼンテーション能力は大切なので敷居の低いうちから取り組ませているのは良いと思う。文化祭では中学生と高校生がタッグを組んだ発表・プレゼンテーションなどがあるとさらに良いと思う。生徒が喜ぶ環境をつくり徹底して取り組んで欲しい。	